

# 皮膚科学系

当教室では、将来の専門分野にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患に適切に対応できるよう、皮膚科領域の基本的な診療能力を身につける事を目標としています。日本皮膚科学会認定専門医を早い時期から意識し、カンファレンスや学会発表、研究を通して上級医が細やかな指導を行っています。以下に日大皮膚科の特徴を述べます。みなさんと一緒に勉強できる日を医局員一同、楽しみにしています。

## 教育

### 新入局員への講義

入局後すぐに、新入医局員にむけて実践に即した講義があります。約10回にわけて、軟膏療法、皮膚腫瘍、手術、皮膚科救急、皮膚科検査、抗菌薬、光線療法などの内容を、上級医が手厚く指導します。また、年間を通して医局内や地域の連携医との勉強会を定期的に行い、知識を深めています。

### 病棟回診

毎週、教授による病棟回診を行っています。回診には全員が参加し、医局員全体で様々な皮膚疾患の臨床やその診断と治療についての知識を共有し、全ての医局員が各患者さんに対応できるよう日頃から備えています。このような場を通して、プレゼンテーション能力を養うとともに、常にエビデンスを十分考慮した医療を実践します。皮膚科医でありながら、他科の知識に関しても積極的に勉強し、総合的に各患者さんの病態理解ができるよう目指します。現在、コロナ禍のため、簡略化して行っております。

### 組織検討会

毎週1回、教授から直接指導を受けられる病理組織勉強会があります。それをもとに、個々が深く勉強し、翌日の病理組織検討会で手術や生検検体全例が各医局員に振り分けられプレゼンテーションが行われます。臨床所見と照らし合わせながら医局員全員で診断や治療方針を検討し、診断能力を磨きます。この検討会を通して皮膚科専門医試験に向けての十分な学習ができるようになっていきます。

### 抄読会

週に1回、英語論文を抄読し、海外でのトピックスを勉強します。医学英語に慣れるとともに、論文の構成についても学べます。現在、コロナ禍のため、中止中です。

### 症例検討会

珍しい症例や治療に難渋する症例は、少数の医師で抱えず、常に医局内で発表し共有することを大切にしています。そうすることで、互いに協力しあひ難しい症例に立ち向かう鋭気を養うとともに、知識を共有して個々の臨床能力を高めます。

### 学会や研究会への参加

国内海外を問わず、学会や講習会、講演会に積極的に参加し自己研鑽に努めます。当教室では学会発表時には必ず責任者となる指導医が一人以上つき、マンツーマンで最初から最後まで熱心に指導します。

論文の執筆指導医のもと学会発表した症例の論文を執筆していきます。ここでも担当になった指導医が丁寧に論文の書き方から投稿方法にいたるまで細やかに指導します。数年で皮膚科専門医試験の単位は十分に取得できる論文が執筆できます。

日本語だけでなく英語での論文執筆に力を入れており、医局員の数で考えると高い生産性を有していると考えられます。

### 専門医取得

日本皮膚科学会認定専門医を早い時期から目指し、日頃の臨床や学会活動を通じて専門医取得に必要な能力が養われます。合格率の低い皮膚科専門医試験において過去5年間では90%以上の合格率と、全国有数の高い合格率を誇っています。

## 専門性

一般外来での幅広い皮膚疾患の診療に加えて、乾癬外来、脱毛外来、アレルギー外来、腫瘍外来、手術班があり、それぞれの専門家の直接の指導が受け

られ、サブスペシャリティを持つための幅広い研修ができます。

乾癬や掌蹠膿疱症は遠方からも多数の患者が受診

しており、ナローバンドUVBやエキシマライトでの光線療法をはじめ、生物学的製剤による治療も積極的に行っております。また、乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、化膿性汗腺炎の患者に対し多くの臨床試験を行っており最先端の治療にかかわることができます。乾癬性関節炎の患者も多く、関節炎が疑われる患者さんは皮膚科およびリウマチ専門医でもある井汲医師の診察を受け関節炎の有無を確認し適切な治療を選択することができます。脱毛外来では、週1回高橋医師による専門外来があり

多くの患者さんに対し治療を行っております。アレルギー外来では葉山医師が難治性の蕁麻疹や重症のアトピー性皮膚炎、アレルギー疾患などの多くの患者さんの診療にあたっています。

また、腫瘍班があり多くの良性および悪性腫瘍の皮膚手術を行っています。

当院形成外科とも繋がりが深く、形成外科との共同での手術では、形成外科医から直接、技術を学ぶことができます。手術に加え、悪性腫瘍に対し化学療法（免疫療法も含む）を多数行っております。

## 研究

当医局は、乾癬、化膿性汗腺炎、蕁麻疹の研究をすすめております。乾癬は准教授が専門としており、臨床研究のみならず、疫学調査、基礎研究など幅広く手掛けています。皮膚アレルギー性疾患は蕁麻疹、マスト細胞が重要な役割を示す疾患を中心に分子生物学的に解析しており、多くの成果が出ています。

また他大学との共同研究も多数行っています。原則としてフルタイムの皮膚科臨床研修を2年終えた後に、大学院に進むかどうかを各自の意思で選択できます。また、大学院在学中もある程度診療をしながら研究を行います。

## 各医局員の出身

日大以外にも様々な大学の出身の医師が日大皮膚科に入局しており分け隔てなく切磋琢磨しております。

【出身大学（順不同）】

聖マリアンナ医科大学、東海大学、東京大学、東北大学、獨協医科大学、日本大学、東京慈恵会医科大学、

千葉大学、九州大学

【初期研修病院（順不同）】

日大板橋病院、相模原協同病院、聖路加国際病院、国際医療福祉大学熱海病院、豊島病院、高木病院、沖縄県立北部病院

## 子育て中の医局員への対応

育児中の医師も多数在籍し、仕事を続けながら育児ができる医局体制が整っています。病院内に保育園があるため安心して仕事をすることができます。時短勤務

などの制度もあり、無理なく職場復帰できるようみんなが助け合いながら働くことができる医局作りを目指しております。

## 専修医からのメッセージ

専修医2年目 守田 医師

入局2年目の守田と申します。

皮膚科を専門にすると決めたものの、皮膚疾患は外来で診る common disease から入院管理が必須の重症疾患まで幅広く、どう学べば良いのか？そして、どの施設で研修すれば良いのか？ご不安な方も多いのではないかと思います。

そんな皆様に当医局を強くお勧めします。

日本大学皮膚科の専修医研修では、主に初診外来の陪席、病棟管理と上申、病理組織検討会、学会発表と論文執筆を通じて、皮膚科医としての能力を養うことができます。まず初診外来の陪席では、上級医の先生の診察に立ち会って、様々な疾患の診断や治療のアプローチを間近で学べます。処置室では、万全な指導のもとに皮膚生検や皮膚腫瘍の切除など

を行い、主義を習得することができます。病棟では蜂窩織炎や帯状疱疹から重症薬疹や水疱症など多岐にわたる症例を経験でき、上申を通じて担当患者さんの経過をわかりやすくプレゼンテーションする能力を養えます。病理組織検討会では、臨床経過から組織像までを確認し診断をつけ、総合的に皮膚疾患を学ぶことができます。学会発表と論文執筆にあたっ

ては、様々なサブスペシャリティで活躍されている上級医に直接指導を受けられます。

医局員の人数は多いとは言えませんが、他科との垣根もなく非常に雰囲気の良い医局です。楽しく充実した研修生活を送っております。

入局先に迷っている方はぜひ、お気軽にお越しください。

## 院外活動

藤田医師が乾癬患者の会に参加しました。

伊崎医師が小学校の教員向けに食物アレルギーにつ

いて講演を行いました。

藤澤医師が東日本大震災支援に参加しました。

## 親睦会

仕事はもちろん医局内の親睦を重要視しています。現在はコロナ禍でなかなか開催できておりませんが、過去に新入医局員歓迎会、同窓会、納涼会、忘年会などを行ってまいりました。同窓会や忘年会では小さな子供のためのキッズルームがあり、医局のイベントに子連れでも

気軽に参加できるのが特徴です。また、学会などで地方へ行った際に、参加している先生とその土地の美味しい食事やお酒をいただくことも日常生活から解放されとても楽しい時間です。

### 問い合わせ先

日本大学医学部皮膚科学分野  
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1  
TEL : 03-3972-8111 (内線 2502)  
FAX : 03-5995-9841  
E-mail : yorimitsu.rika@nihon-u.ac.jp



相談はいつでも受け付けます。

遠慮なくご連絡ください。

